

## 善福寺 親鸞聖人坐像

本願寺派 神奈川県中郡大磯町

### 善福寺由緒

善福寺は龍頭山花山院と号す。親鸞聖人が度々国府津を訪れ、近隣の人々に念仏を勧められていたといわれている。その聖人が国府津に留杖の折り、教化を受けた平塚入道によって開基された寺院。俗姓を曾我十郎祐成の子祐若すけわかと言った。

父の曾我十郎が仇討ちという本懐を遂げたとき（『曾我物語』）、すでに母である虎御前（善福寺の近くの山下の長者の娘）が懐妊中であった。そして事件のあとに生れた男の子が祐若である。成長して源実朝より平塚の荘を賜り、河津三郎信之と名のつた。ところがつらつら思うに、父祖いずれも天寿を全うせず悲運の最期を遂げられた因縁により、この世の無常を感じ出家され平塚入道法求禪門と名のつた。

この頃、親鸞聖人もたびたび相模国を訪れており、寛喜元年（1229）、平塚入道は国府津の聖人のもとを訪ね、直ちに弟子となり「了源」という法名を賜り、母・虎御前の生地近くのこの地に草庵を結んだのが始まりである。

建長3年（1251）3月、60歳で了源が亡くなった際、その死を知った親鸞聖人は関東の念仏者に送ったお手紙の中で以下のように述べている。

「また、ひらつかの入道殿の御往生とききそうろうこそ、かえすがえす、もうすにかぎりなくおぼえそうらえ。



善福寺 親鸞聖人坐像

めでたさ、もうしつくすべくもそうらわず。おのおの、いよいよみな、往生は一定とおぼしめすべし。」

《御消息集》

（現代語訳）

「平塚の入道が御往生したとのこと。誠にかえすがえすめでたいことで、言葉に尽すことはできません。皆々にあっても、往生は間違いなく浄土に生まれるものと考えなければなりません」

了海は、親鸞聖人の関東六老僧の1人に数えられている。

### 親鸞聖人坐像

親鸞聖人自作の像と伝える。鎌倉時代後期の作で、調査では開基の了源とし、「木造伝了源坐像」の名称で国指定文化財に登録されているが、善福寺では古くから親鸞聖人像として拝されてきたことから、親鸞聖人坐像としてご給仕されている。

ただ、本像と近似する像もあることや、東国を中心に合掌する姿の親鸞聖人像が複数伝来することから、やはり聖人像とも考えられている。